

はじめに

平成15年4月、総合情報処理センター（教員2名）が改組され、3部門（情報教育部門、学術情報部門、情報基盤部門 教員8名）から構成される総合メディア基盤センターが発足しました。当初は、教授1、助手1が欠員でしたが、平成18年4月までに全員が補充され、現在にいたっています。

平成16年度からは、国立大学法人となり、中期目標と中期計画が策定されました。総合メディア基盤センターのミッションも、全学の中期目標・中期計画のもとに位置づけられました。

発足から4年間、国立大学法人化後3年間が経過した現在、設立時のミッションがどの程度達成されたか、どの点が残されているかを中心に、外部専門家の方からの評価をいただいて、これからのセンターのあり方の指針とする目的で、平成19年度に外部評価を受けることになりました。

平成16年10月には、情報教育部門を中心に学術情報部門と情報基盤部門の支援をえて進めてきた全学におけるICT（Information Communication Technology: ICT）教育推進に関して、現代GPの補助金が採択されました。現代GP補助金と学内予算を含めて、3年間約12,000万円の予算で、全学のICT教育を大学教育開発・支援センターと協力して立ち上げてきました。これらの活動は、全国からも高い評価を受けていると自負しております。学術情報部門もこの間、知財データベースの整備や図書館のリポジトリ計画、研究データベースの集約活用、ICT教育用素材データベースの構築など、全学の教育研究面でますます高まるデータベースの開発や統合化で重要な貢献をしてきました。情報基盤部門では、益々高まるネットワークの整備やセキュリティ管理を先進的に取り組んできました。全国の同規模国立大学法人のセンターと比較をしても優れた取り組みといえると思います。平成19年度には、計算機システムの更新が行われました。これらの主な活動を中心に、活動内容紹介とそれらに対する自己点検評価をこの文書では扱っています。

今後の総合メディア基盤センターのあり方を検討していく上で、外部評価委員の皆様による率直で建設的なご意見をぜひともお願いしたいと希望しております。

平成19年8月

総合メディア基盤センター長

鈴木恒雄

